

横浜市感染症発生動向調査報告 9月

《今月のトピックス》

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告数が多い状態が続いています。
- 手足口病の流行警報が発令されています。
- RSウイルス感染症の報告数が多い状態が続いています。

◇ 全数把握の対象

〈9月期に報告された全数把握疾患〉

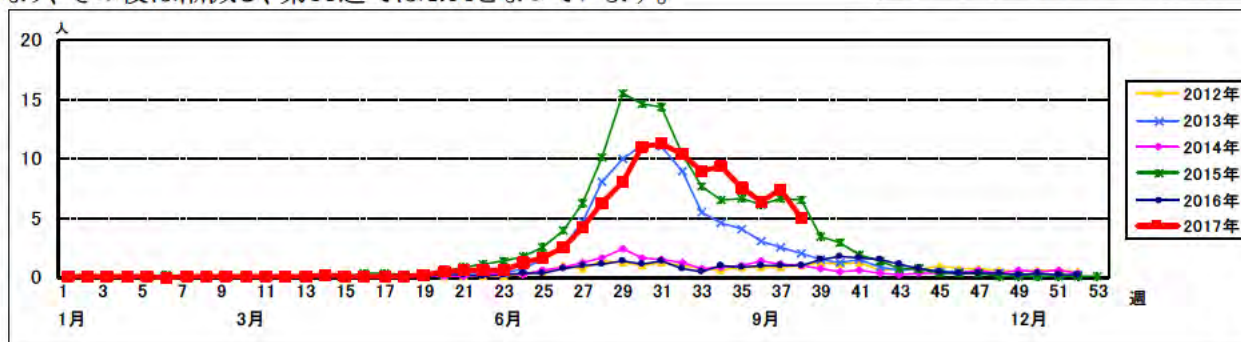
細菌性赤痢	2件	急性脳炎	3件
腸管出血性大腸菌感染症	28件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
ジカウイルス感染症	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	6件
デング熱	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	1件
レジオネラ症	3件	梅毒	11件
アメーバ赤痢	5件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	3件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3件	—	—

- 細菌性赤痢: *sonnei*(D群)の報告が2件ありました。インド、タイでの経口感染と推定されています。
- 腸管出血性大腸菌感染症: O157の報告が16件、O26の報告が11件、O145の報告が1件ありました。うち、無症状病原体保有者が8件でした。集団内での発生の報告がありました。
- ジカウイルス感染症: 1件の報告があり、キューバまたはバハマでの蚊からの感染と推定されています。
- デング熱: 1件の報告があり、タイでの蚊からの感染と推定されています。
- レジオネラ症: 肺炎型の報告が3件ありました。感染経路等不明です。
- アメーバ赤痢: 5件の腸管アメーバ症の報告がありました。いずれも感染経路等不明で、感染地域は、国内またはハワイが1件、国内またはトルコが1件、国内が3件でした。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 3件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 急性脳炎: 10歳未満の報告が2件、10歳代の報告が1件ありました。1件は腸内細菌科細菌、2件は病原体不明でした。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: G群の報告が1件あり、感染経路等不明でした。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): 無症状病原体保有者の報告が5件、AIDSの報告が1件あり、いずれも男性でした。感染経路はいずれも性的接触で、同性間が5件、異性間が1件でした。
- 侵襲性肺炎球菌感染症: 80歳代の報告が1件(ワクチン接種歴不明)でした。
- 梅毒: 男性7件、女性4件の報告があり、病型は無症状病原体保有者3件、早期顕症梅毒Ⅰ期6件、早期顕症梅毒Ⅱ期2件でした。推定感染地域は国内が9件、ミャンマーが1件、不明が1件でした。感染経路は性的接触が10件(異性間9件、性別不詳1件)、不明が1件でした。
- バンコマイシン耐性腸球菌感染症: 3件の報告がありました。

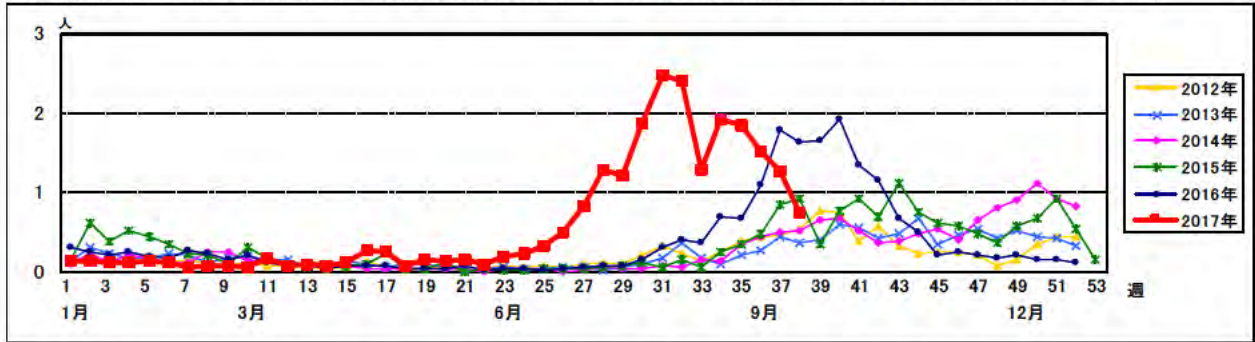
◇ 定点把握の対象

- 手足口病: 第26週で定点あたり2.45、第27週で4.13と増加し、第28週で6.20となり、警報発令基準値(5.00)を超えました。第31週に11.20となり、その後は漸減し、第38週では4.95となっています。

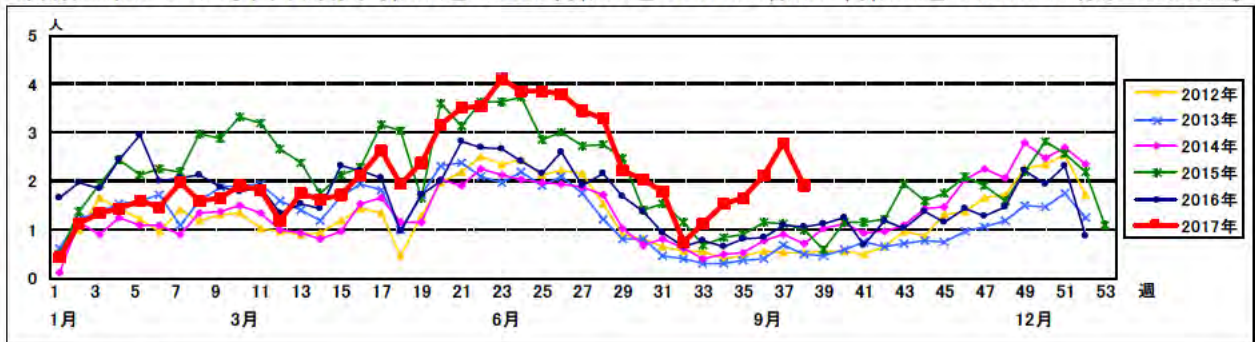
報告週対応表	
第35週	8月28日～9月 3日
第36週	9月 4日～9月10日
第37週	9月11日～9月17日
第38週	9月18日～9月24日



2 RSウイルス感染症：例年より早く増加し始め、第31週で2.47となり、観測を開始した2003年以降、市内では最も高値となりました。その後も例年より高い水準で推移し、第38週では0.74となっています。



3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎：第35週で1.65、第37週で2.78と増加し、第38週では1.90と減少しました。



4 性感染症(8月)

性器クラミジア感染症	男性:31件	女性:29件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 6件	女性:9件
尖圭コンジローマ	男性: 7件	女性: 1件	淋菌感染症	男性:20件	女性:2件

5 基幹定点週報

	第35週	第36週	第37週	第38週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.50	0.25	0.00	0.50
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

6 基幹定点月報(8月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	10件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1件
薬剤耐性緑膿菌感染症	2件	—	—

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

9月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点32件、内科定点7件、眼科定点2件、基幹定点12件でした。

10月10日現在、ウイルス分離5株と各種ウイルス遺伝子27件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(9月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ *1	ア デ ノ 感 染 症 *2	手 足 口 病 *1	ヘル パン ギー ナ	発 熱
インフルエンザ AH3型			1				
インフルエンザ B型山形系統			2				1
アデノ 2型				1			
アデノ 型未同定				2			
パラインフルエンザ 1型	1	1					
パラインフルエンザ 3型	2	2					1
RS	2	5					
ヒトコロナ*3		1					
エンテロ 71型					1		
パレコ 3型							1
コクサッキー A6型	1				2	1	
コクサッキー A8型		1					
コクサッキー A10型	1						
エコー 3型							2
合計	7	10	3	1 2	1 2	1	5

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

*1:疑いを含む、*2:咽頭結膜熱を含む、*3:HCoV-229E or NL63、HCoV-OC43

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

9月の「細菌感染性胃腸炎」は赤痢菌 (*Shigella sonnei*) が基幹定点とその他から1件ずつ、腸管出血性大腸菌 (O157:H7, VT1&2が8件、O157:H-, VT1&2が1件、O157:H7, VT2が7件、O26:H11, VT1が6件) がその他から22件、サルモネラ属菌が基幹定点からO4群1件とO9群2件でした。

「その他の感染症」のレジオネラ属菌は *Legionella pneumophila* SG5でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(9月)

細菌感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	9月			2017年1月～9月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
赤痢菌		1	1		3	2
腸管出血性大腸菌			22		7	74
腸管毒素原性大腸菌					5	3
腸管凝集性大腸菌					4	
チフス菌					1	
サルモネラ属菌		3			18	5
不検出	0	0	0	6	9	1

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	9月			2017年1月～9月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌				9		1
T1						
T4	1			4		
T6				4		
T12			1	2		1
T B3264				3	1	1
型別不能				1		
B群溶血性レンサ球菌			2		2	7
G群溶血性レンサ球菌			1		2	4
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌						3
バンコマイシン耐性腸球菌			4			8
レジオネラ属菌		1			1	5
インフルエンザ菌				1	1	4
肺炎球菌					5	14
結核菌					20	66
百日咳菌		1			4	
緑膿菌					1	
その他					44	22
不検出	1	0	0	3	2	5

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】